

6. 仕様

	全長	全巾	全高	座高	背外高	重量	最大荷重
平坦架	1,865	520	195	—	—	9.5kg	120kg
椅子担架	660	520	1,360	520	850	9.5kg	

7. お手入れのしかた

■本体・シート

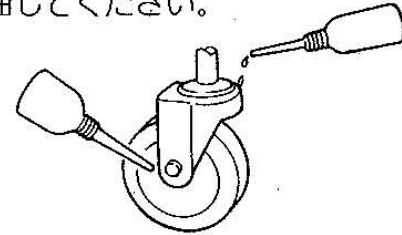
本体のお手入れは、台所用洗剤に浸した柔らかい布でふきとり、空ぶきをしてください。

- 変質・変色防止のために下図のようなものなどは使わないでください。
- 化学ぞうぎんをご使用の際は、その注意書に従ってください。



■車輪・回転部

布でゴミやよごれをふきとり潤滑油を注油してください。



8. 保証

- 保証期間は、お買い上げ後1カ年です。(本体、付属品共)

ただし、次の場合は保証期間中でも有償修理とさせていただきます。

1. 火災、天災による故障・損傷の場合
2. 取扱説明書に記載の使用法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
4. タイヤの摩耗、シートのやぶれ等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
5. 修理に要した運賃等の諸経費

9. アフターサービス

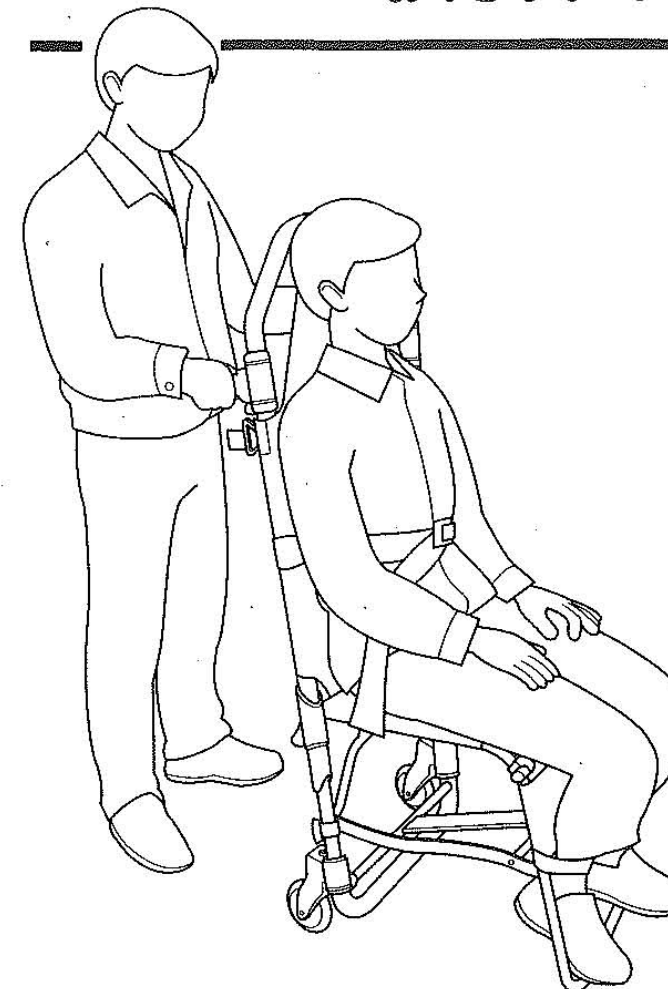
万一故障の場合は、お買い上げいただきました販売店または、松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

アシストストレッチャー 取扱説明書

保存用

必ず保管しておいてください。

このたびは当社のアシストストレッチャーをお買い上げいただきありがとうございます。この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明されています。ご使用になる前に、必ずお読みください。以後は大切に保管してください。



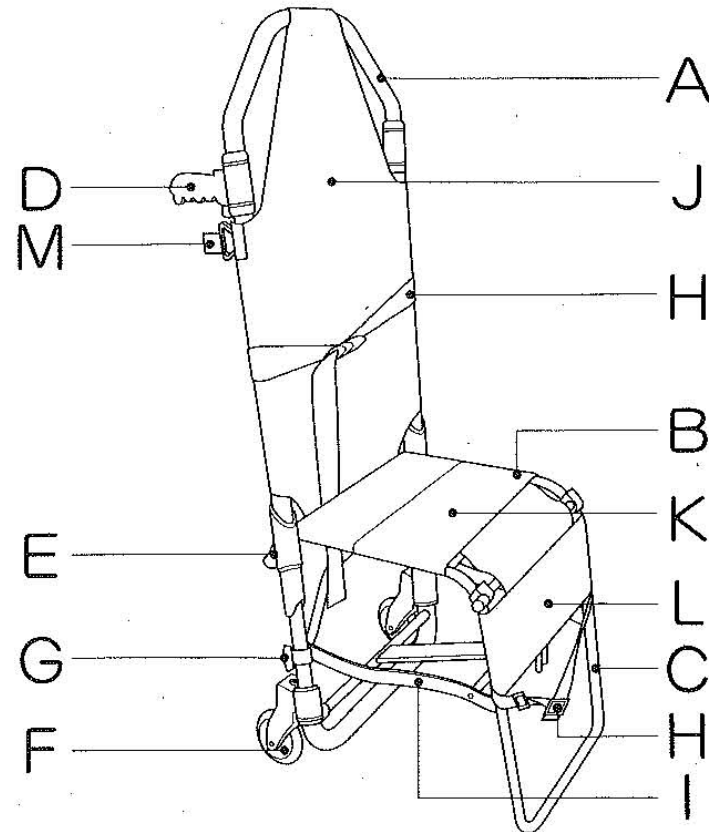
目次

1. 各部名称	1
2. ご使用まえに	1
3. ご使用方法及び操作方法	2~3
4. 安全上のご注意	4~5
5. 3ヶ月に一度の定期点検	6
6. 仕様	6
7. お手入れのしかた	7
8. 保証	7
9. アフターサービス	7

1. 各部名称

アシストストレッチャー

- A. 背フレーム
- B. 座フレーム
- C. 足フレーム
- D. グリップ
- E. ジョイント
- F. キャスター
- G. ロック(セフティーロック)
- H. ベルト(胸・足)
- I. フラットバー
- J. 背シート
- K. 座シート
- L. レッグシート
- M. 開き止め

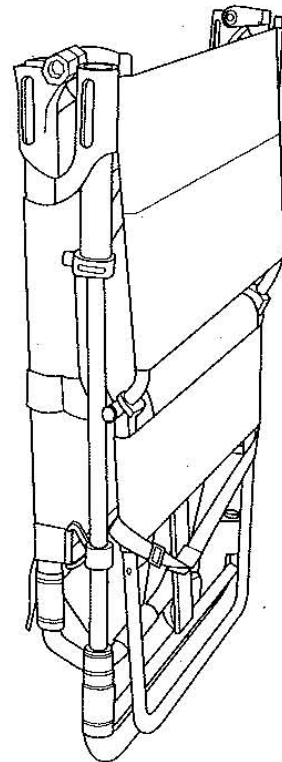


2. ご使用まえに

出荷時には検査をしていますが、ご使用前に製品の確認をしてください。

- 1 箱が破損していたり濡れたりしていないか、箱から出してAからMまで各部の破損またキズやねじれはないか、ボルトやナットの脱落はないか点検してください。
異状がある場合は販売店または弊社にご連絡ください。

梱包状態



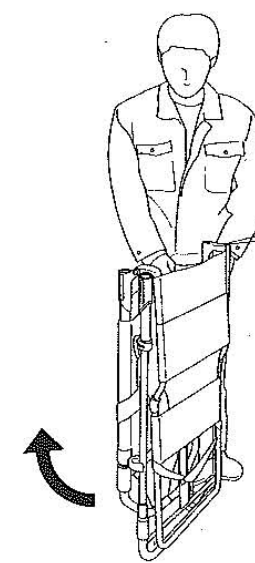
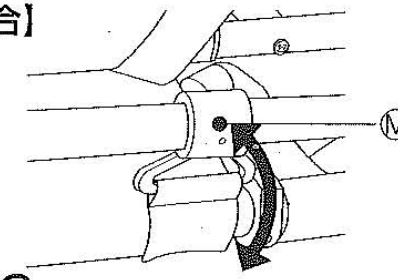
3. ご使用方法及び操作方法

警告

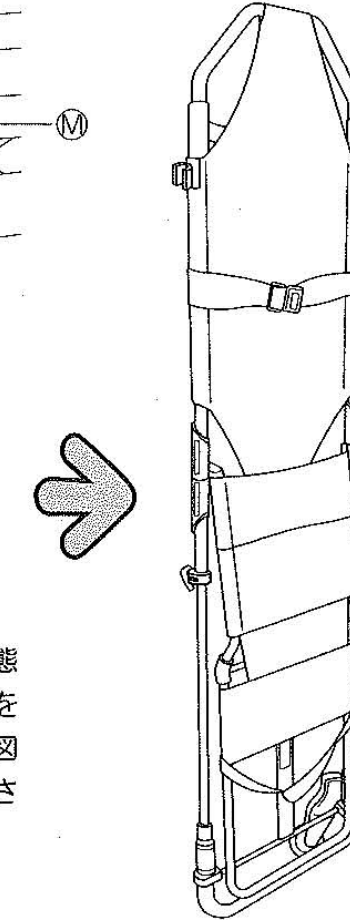
ジョイント⑥部分及びフラットバー①と足フレームパイプ③の間に、手や指などを入れないでください。
◇押しつぶされてケガの原因になります。

【平担架にする場合】

1. 開き止め④をはずしてください。

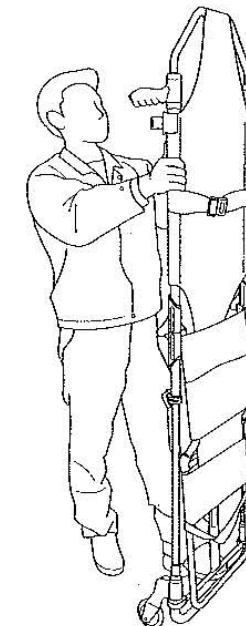


2. 左図の折たたみ状態から背フレーム④を180°回転して右図の状態にしてください。

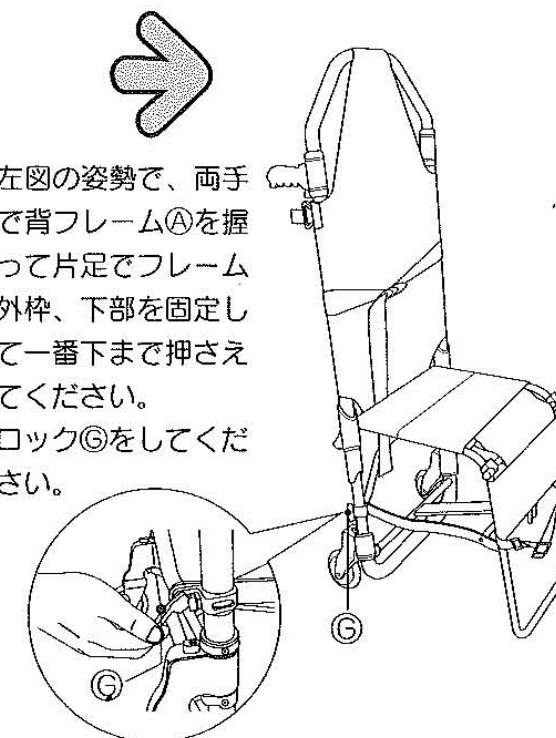


3. 右図の状態になったら地面に置いて、左右それぞれにグリップ④キャスト⑤を固定してください。固定方法は3ページをご参照ください。

【椅子担架にする場合】



1. 左図の姿勢で、両手で背フレーム④を握って片足でフレーム外枠、下部を固定して一番下まで押さえてください。ロック⑥をしてください。



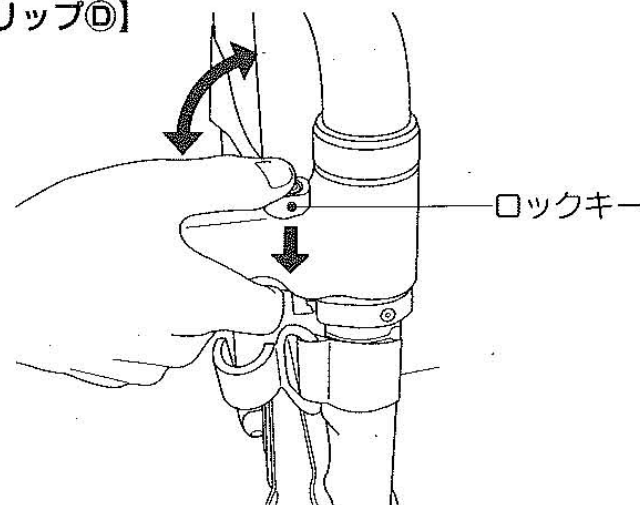
2. 椅子担架から平担架にするには、ロック⑥をはずし片足でフレーム外枠下部を押さえて背フレーム④を上を持ち上げてください。

注意

椅子担架にした場合は必ずロック⑥をしてください。

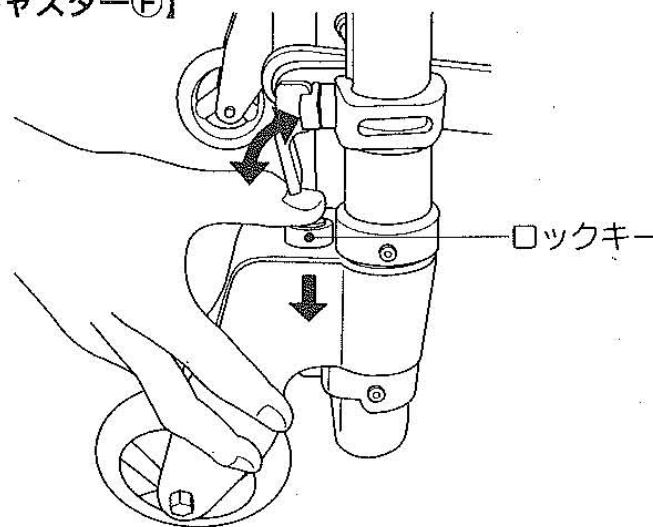
グリップとキャスターの固定方法

【グリップ①】



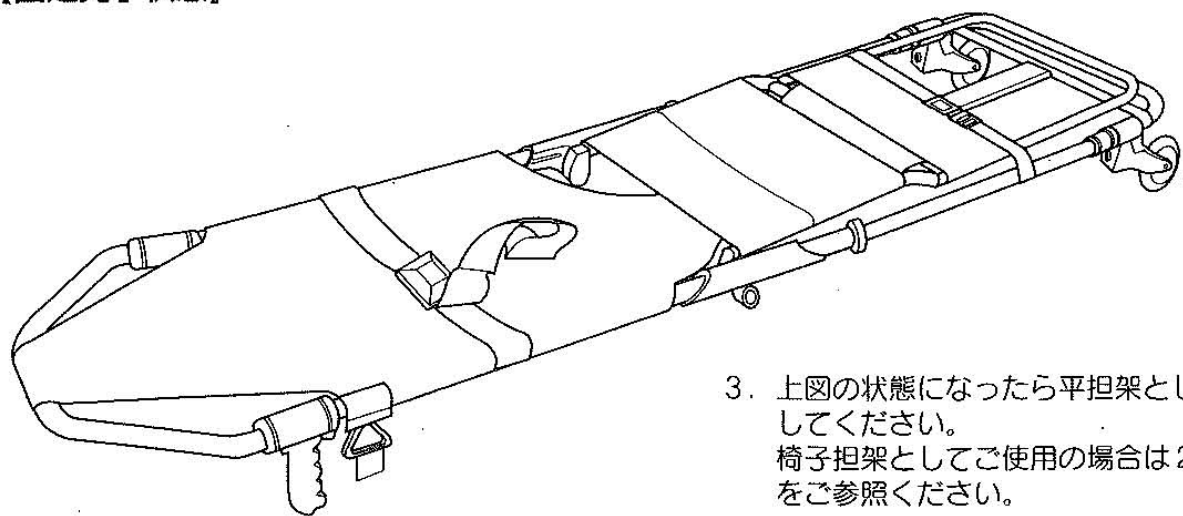
1. ロックキーを指で矢印の方向に奥まで押さえたまま、グリップを中央のキー溝凹の位置に合わせ、指をはなしてロックキーをキー溝凹に入れてください。左右グリップが押手の状態になったらロックキーの固定を確認してください。

【キャスター②】



2. ロックキーを指で矢印の方向に奥まで押さえたまま、キャスターを中央のキー溝凹の位置に合わせ指をはなして、ロックキーをキー溝凹に入れてください。左右のキャスターが走行状態になったらロックキーの固定を確認してください。

【固定完了状態】



3. 上図の状態になったら平担架として使用してください。椅子担架としてご使用の場合は2ページをご参照ください。

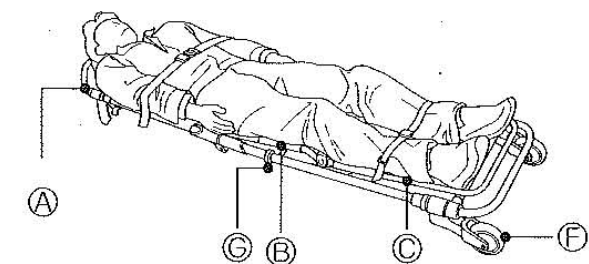


注意 左右に動かしてロックキーが溝に入っていることを必ず確認してください。固定されていないと転落転倒の原因になります。

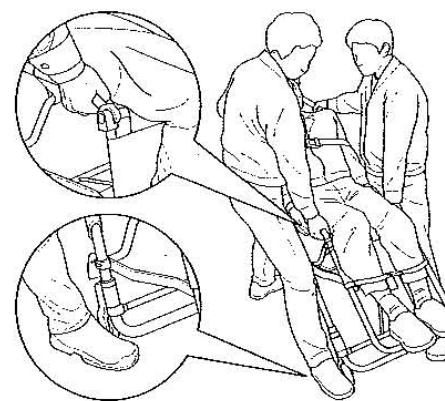
患者を乗せたまま平担架 → 椅子担架にする方法

<操作は必ず2名以上で行ってください>

1. 平担架の状態でお患者さんをお乗せください。(胸・足のシートベルトを必ず締めて体を固定してください)
2. 背フレーム④の上部左右のパイプと座フレーム⑤をしっかりと持ってください。
3. キャスター⑥を足で移動しないように固定しながら、平担架を起こします。患者の重みで自然に椅子型になります。(背フレーム④と座フレーム⑤は必ずしっかりと持ってください)



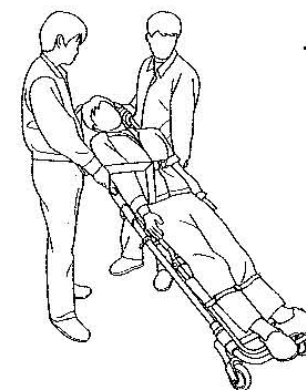
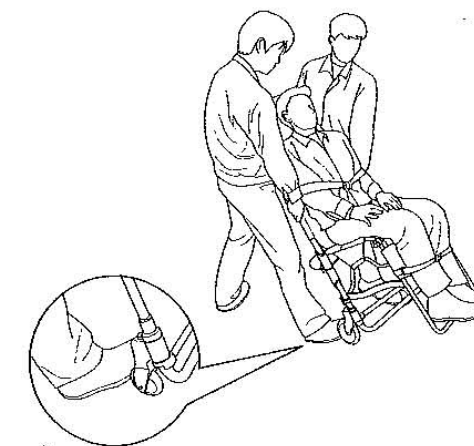
4. 背フレームが一番下までおりたことを確認し、ロック③を固定してください。



患者を乗せたまま椅子担架 → 平担架にする方法

<操作は必ず2名以上で行ってください>

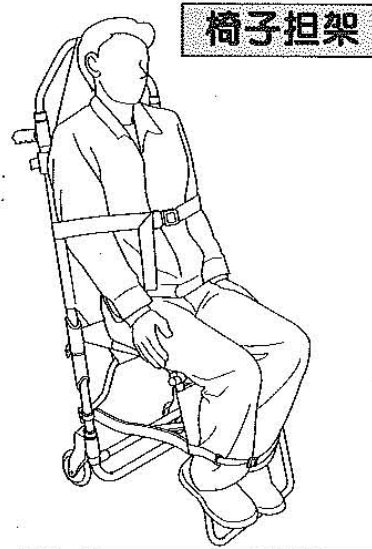
1. ロック③をはずし、背フレーム④をしっかりと持ち、本体フレームをもう一方の手で支えながら椅子担架を後ろへ少し傾けます。
2. キャスター⑥を足で移動しないように固定し、椅子担架をさらに後ろへ傾けながら背フレーム④を引き上げます。(背フレーム④と本体フレームを必ずしっかりと持ってください)
3. 足フレーム⑦が一番下まで延びたことを確認してください。



⚠ 注意

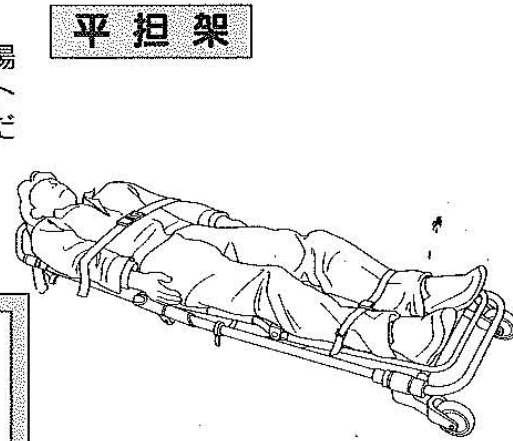
- ・患者さんが苦痛でなく、転落もしないようにしてください。
- ・座フレーム⑤、ジョイント⑥で手や足をはさまないようにしてください。
- ・椅子担架にした場合は、必ずロック③をしてください。

4. 安全上のご注意 必ずお守りください



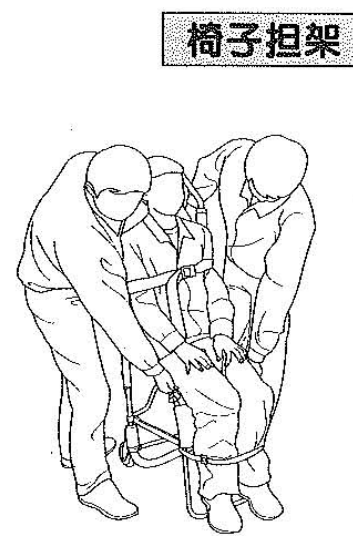
1. **【シートベルト④】**
平担架、椅子担架でご使用の場合には、胸・足のシートベルトを必ず締めて体を固定してください。

⚠️ 注意
乗降の場合は、担架を固定させて平坦な場所で行ってください。担架が動いて転落する危険性があります。



2. **【1名のキャスター移動】**
平担架の場合は、背フレーム⑤の上部左右のパイプを持ち上げて安全な角度で移動してください。
椅子担架の場合は、背フレーム⑤に付いているグリップ⑥を握って、後方に安全な角度に傾斜させて移動してください。

⚠️ 注意
患者さんが苦痛でなく又、転落しない角度にしてください。

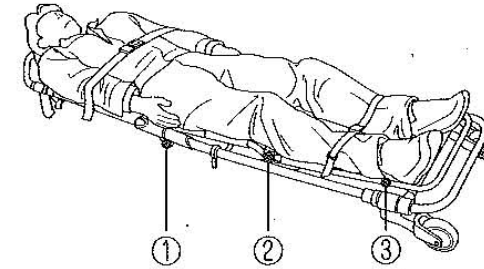


3. **【2名～4名で移動】**
平担架の場合は、背フレーム⑤の上部両端と下部外枠フレームの両端を持ち上げて移動してください。
椅子担架の場合はグリップ⑥と座フレーム⑦を持ち上げて移動してください。

⚠️ 注意
水平を保って、患者さんの転落を防止してください。

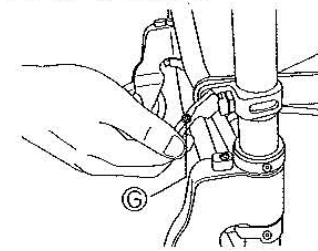


4. 各折たたみ部分に指、手足、衣服などはさまないようにしてください。



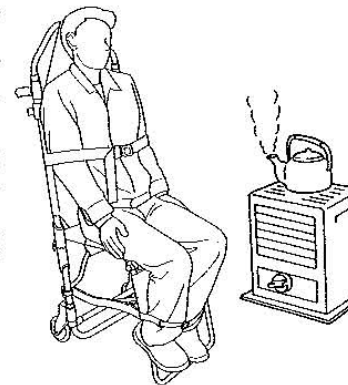
⚠️ 注意
①②③の左右同じ場所には特に注意してください。ケガをする危険性があります。

6. 椅子担架にした場合には必ず、ロック⑥を固定してください。

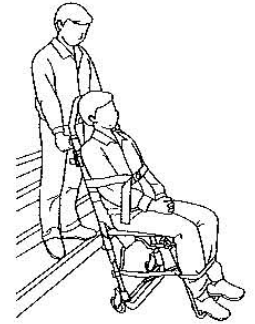


⚠️ 注意
ロック⑥が固定していないと背パイプ⑤に力が加わった場合、不意に動いて転倒する危険性があります。

8. ストープなど火気に近づけないでください。シートが燃えたり、パイプが加熱されやけどをする危険性があります。

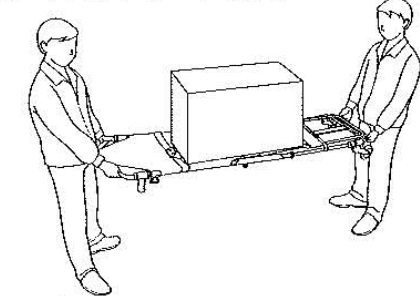


5. 平担架・椅子担架でキャスター移動の場合段差、階段などでは必ず持ち上げて移動してください。



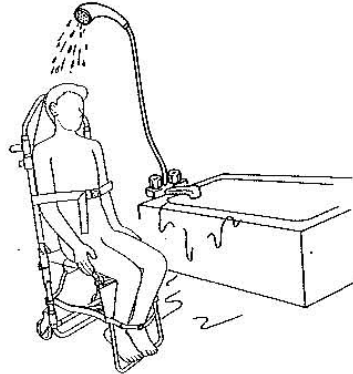
⚠️ 注意
患者さんが転落してケガをする危険性があります。またキャスターを破損する恐れがあります。

7. 使用目的以外に使用しないでください。例：荷物などの運搬等



⊘
破損の原因になります。

9. 屋内、外の滑りやすい場所での移動には転倒にご注意ください。



5. 3ヶ月に一度の定期点検

- ①各部連結部のピン、ボルト、ナットのゆるみと脱落
- ②グリップ、キャスターのロックキーの作動
- ③シートのキズ、破れ、ファスナーの破損
- ④車輪の摩擦と破損
- ⑤フレームのゆがみ

注意 車載の場合は振動を考慮して念入りに行ってください。